

できる? できた!!
くらしの にほんご

支援者のための

活動デザインブック



❖ はじめに ❖

近年、仕事や国際結婚などで日本に定住される方も増え、日本語学習の目的や必要性も多様化しています。外国から来た方たちは、買い物、病院、金融機関、役所など生活の中のさまざまな場でことばの壁にぶつかり、不安を抱えることもあるでしょう。日本で安心して暮らしていくために、なるべく早く生活に必要な日本語を学ぶことが必要です。また、日常のあいさつやごみの捨て方など地域の習慣を知ること、災害や事故に備え対処の方法を身につけておくことも大切です。そのために、どのような日本語学習支援が必要でしょうか。

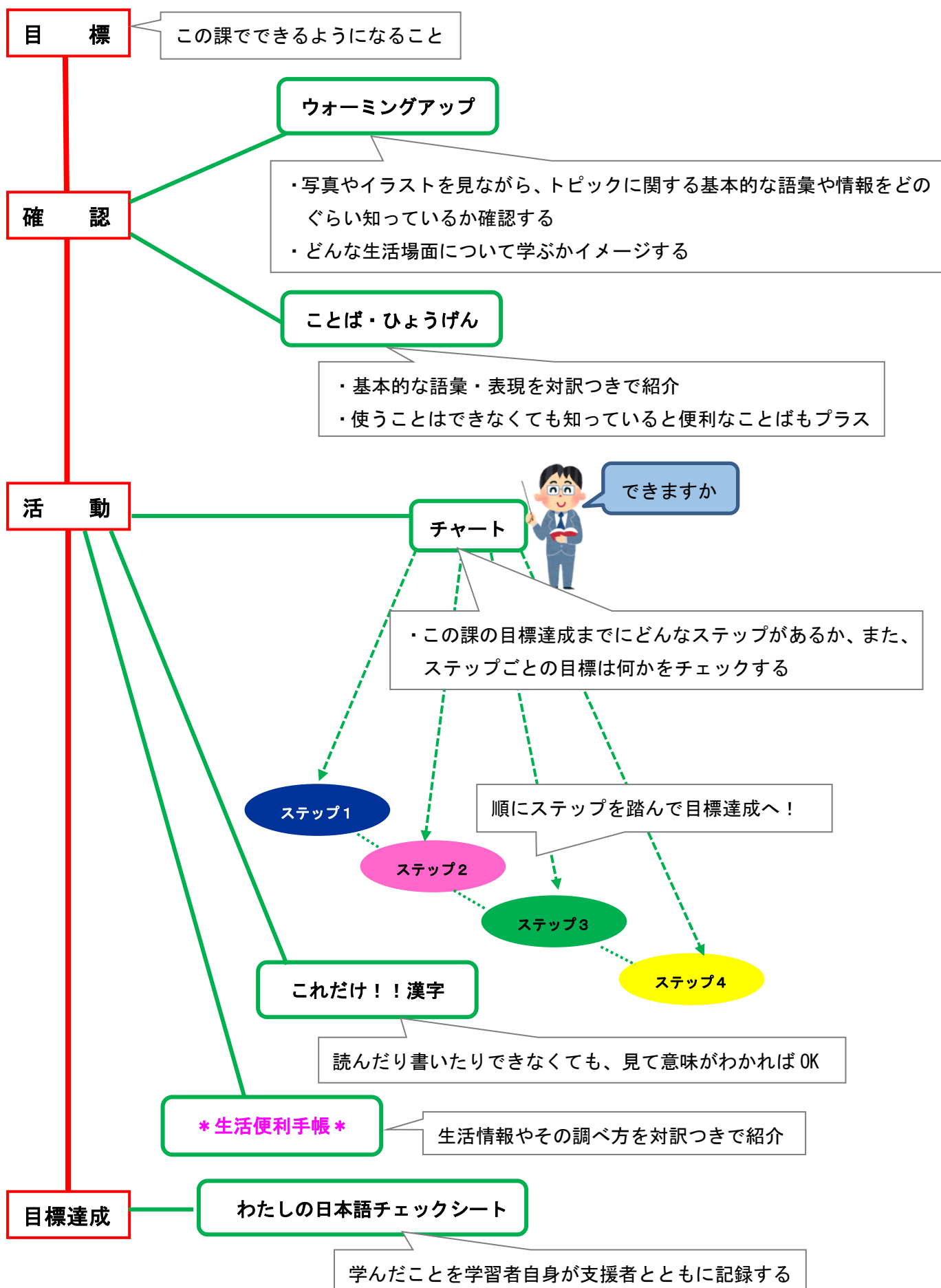
兵庫県国際交流協会では、さまざまな生活場面で“ことばを使って、〇〇ができる！”ことを目指し、日本語教科書『できる？できた！！くらしのにほんご』を作成しました。日常でよく使うことば、緊急時に必要なことばを優先的に学ぶ、社会習慣や地域のルールなど必要な情報を知る、そうすることで、学んだ日本語が実生活の場面に結びつき、“できる？”という不安が、一つ一つ“できた！！”に変わることを目指しています。

付属教材『わたしの生活ノート』は、この教科書に準拠し「食品のアレルギー表示の確認」、「災害・避難メモ」など自分なりのメモを作りながら、学習者一人ひとりが普段に活かせる“生活ノート”を作り上げていくものです。

これらの教材を活用していただけるように、『活動デザインブック』を作成しました。活動の例としていくつかのヒントをあげましたが、支援者のみなさんがご自身のアイデアをどんどん書き込んでいくことで、はじめて完成します。学習者と同じ地域で暮らすからこそわかること、知っていることが、いろいろあるはずです。この『活動デザインブック』が、みなさんの経験をより豊かな学習支援活動に結びつける一助になることを願っています。

最後になりましたが、作成にあたり多くの方に貴重なご助言、ご教示をいただきました。『できる？できた！！くらしのにほんご』を用いての講座をご担当くださった講師の方々、地域日本語教室から現場の声を届けてくださった支援者の方々をはじめ、ご協力くださったみなさまに感謝申し上げます。

❖『できる?できた!!くらしのにほんご』各課の構成 ❖



「この活動例はちょっと難しいかもしれない」



と感じたら、

今、学習者が持っている力に合わせて変えてみる工夫を！

「できた！」



につながる活動を目指しましょう！

❖『活動デザインブック』の構成❖

かつどう1

【ウォーミングアップ】

(1)



ステップ1

- 【1】 _____
- 【2】 _____
- 【3】 _____

ステップ2



ステップ3



ステップ4



📖 p__ 生活でよく使うことば

📖 p__ 生活便利手帳

📖 『わたしの生活ノート』 p__

+1!

設問の答えの例です。

他に、どんなウォーミングアップができるか、考えてみましょう。📖

各ステップを進める手順の一例です。

かつどうのカギとなるポイントや、注意点です。👉

暮らしている地域、目の前の学習者に合わせて必要な情報を補足していきましょう。そのためのメモとしてどんどん書き込んでください。📖

見せたい、使いたい、あれば便利な実物や準備できる物を書き留めましょう。📁

参考になるページと、付属教材『わたしの生活ノート』の関連ページを示しています。

支援するとき知っておくと便利な情報や注意すべき点、心得ておくべきことなどのプラスワン情報です。

+1!

📖 『できる?できた!! ぐらしのにほんご』各課にある【チャート】、【ことば・ひょうげん】については、さまざまな使い方ができるので、課ごとには取り上げていません。以下をご参照ください。

【チャート】

目標を達成するまでのステップと、全体の流れを確認したり、学習者が今できること、できないことをチェックして、やるべきことを選ぶ目安にしたりすることができます。他にも自由な使い方役立ててください。

【ことば・ひょうげん】

いつ、どのように使うか決まりはありません。全体をイメージするために、まず全部のことばを見てもいいですし、ステップごとに必要なことばを分けてもいいです。また、対話の中でわからないことばがあれば、ここで確認することもできます。ただ読むのではなく、いろいろ話題をふくらませるきっかけにも使ってみてはどうでしょう。また、ことばを足したり、引いたりして、学習者に合わせる必要がある場合もあります。対訳があることを活かして、役立ててください。

📖 各課のステップにはメモを作成する活動がいくつかあります。これには大きく二つの目的があります。ひとつは、学習者自身が作成したメモを、直接、実生活で活用するということです。たとえば、第3課では、駅の窓口で切符を買うためのメモを作成します。これを持って行って、窓口で提示すれば、学習者が話したり聞いたりすることに自信がない場合でも、独力で希望の切符を買うことができます。もうひとつは、口頭でのやり取りの準備をするということです。まず、メモを作成し、要点を整理してから、それをどう伝えればいいのか、会話例を参考にシミュレーションすることができます。たとえば、第8課のガスの開栓申し込みのためのメモ作成は、電話で話すためのものです。

📖 『わたしの生活ノート』には、学習者自身が書き込んでいく「わたしのことばリスト」があります。生活環境が違えば、必要とする語彙、表現も異なります。知りたいことばを母語で書きその日本語訳を調べたり、聞いてわからなかったことばを日本語で書きその意味を母語でメモしたりします。学習者が、課ごとに、あるいは、自分で決めたテーマごとにことばを書きとめていくことで、その人だけの辞書として役立てることにお使いください。

1 課から 10 課まで順番にこなしていく必要はありません。
すべての活動をやらなければならないと考えるしないでください。

何を選ぶかは、目の前の学習者が教えてくれます。

何ができるようになりたいのか

何で困っているのか

学習者の「今」に合わせて取捨選択しましょう。

時間とともに、学習者の「今」も変わります。

その時、その時に応じた柔軟な支援が求められています。

❖ 目次 ❖

★ はじめに.....	p1
★『できる?できた!! 暮らしのほんご』各課の構成.....	p2
★『活動デザインブック』の構成.....	p3
第1課 人と知り合いになる	1 「自己紹介をする」 p6
	2 「引っ越しのあいさつをする」 p7
第2課 買い物する	1 「スーパーで買い物する」 p9
	2 「デパートでほしいシャツを買う」 p11
第3課 電車やバスで出かける	1 「電車で出かける」 p14
	2 「バスに乗る」 p16
	3 「窓口で切符を買う」 p17
第4課 郵便局や銀行を利用する	1 「海外に荷物を送る」 p19
	2 「国内に荷物を送る」 p20
第5課 日本語でパソコンに入力する	1 「ひらがな・カタカナをパソコンに入力する」 p22
第6課 病気になったら・・・	1 「病院を探す」 p24
	2 「病院で診察を受ける」 p25
第7課 安全に過ごす	1 「近くの人に助けてもらう」 p28
	2 「110番に電話する」 p28
	3 「119番に電話する」 p29
	4 「災害のために準備する」 p30
第8課 役所へ行く	1 「役所で住民異動届を出す」 p33
	2 「ガス・電気・水道の手続きをする」 p34
第9課 ごみを出す	1 「ごみを正しく出す」 p36
	2 「大型ごみを出す」 p38
第10課 日本を楽しむ	1 「日本で行きたいところについて人に情報を聞く」 p40
	2 「旅行の感想を言う」 p41
	3 「インターネットで電車の時刻を調べる」 p42

※活動デザインシート・・・自由に書き込んで、オリジナルの活動をデザインしてみませんか。



第1課

【目標】あいさつを交わし、自己紹介することを通して、地域での人間関係を築く

▶かつどう1 「自己紹介をする」

【ウォーミングアップ】

- (1) ①②おはよう（ございます）／こんにちは ③ありがとう（ございます）
⑥はじめまして。〇〇です。どうぞよろしく（お願いします）



絵を見て学習者と一緒に場面を考えてください。たとえば、「今、朝8時です。」「昼の3時に友達に会いました。」のように具体的なイメージがあるとわかりやすいです。また、ことばだけでなく、会釈する、手を振るなど、動作も一緒にやってみるといいですね。



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 実際にプレゼントを準備し渡してみる／

ステップ1

ウォーミングアップ同様、絵を見ながら、どんな人が、いつ、どこで話しているかを考え、何とあいさつするか話し合います。

9) 「いただきます」「ごちそうさま」 p12 生活便利手帳 1



よく使われるあいさつを書き出しましょう。それは、どんな相手に、どんな場面で使われますか。

例) 「また来週」／

ステップ2

学習者の状況に応じて、まずは、名前だけ、次に出身地を加えるというように、段階を追って項目を増やしていきましょう。 p12 生活便利手帳 2



名前は意外に伝わりにくく、また相手の名前も聞き取りにくいものです。特に、日本語にない音を含んでいる場合は、何度聞き返してもわからないということもありますね。相手に伝わるように自分の名前や出身地が言えることを目指して、いろいろな場面設定で自己紹介してみましょう。

p182 生活でよく使うことば1 「国」

ステップ3

1対1での練習だけでなく、他の支援者、学習者とも話す機会が作れるといいですね。

p12 生活便利手帳 2



聞き取れなかったときに、つい、わかったふりをしてしまい、後で困ることがあります。問い返したり、確認したりすることが必要です。

▶かつどう2 「引っ越しのあいさつをする」

【ウォーミングアップ】

- (1) ①大阪 → 兵庫県(神戸) ②引っ越ししました
(2) ①近所の人に引っ越しのあいさつをしています ②引っ越しのあいさつのプレゼントを持っています



(2) の絵を見ただけでは、場面設定がわからないかもしれません。表札(部屋番号と名前)と「はじめて」のあいさつに注目し、何をしているところか考えてもらいましょう。📖p12 生活便利手帳3

- (3) 引っ越しの経験があれば、話し合ってみましょう。



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 学習者の国では引っ越しのあいさつに行くかどうか聞いてみる／



ステップ1の前に、まず、p7(2)のイラストを示し、p10上の場面設定を説明します。登場人物はハンさんと田中さんです。p10下の絵で、名前や部屋番号を見ておきましょう。

ステップ1

引越しのあいさつに来たことを伝えるのがポイントです。モデル会話を示す前に、学習者ならどう言うか、聞いてみましょう。正解はひとつではありません。

ステップ2

【1】どこに引っ越してきたかを言うために、部屋番号や階数、位置を表すことばが必要です。p10、11の絵でも、いろいろな位置関係を示すことができます。

📖p182 生活でよく使うことば2「数字」、p186 生活でよく使うことば8「階」



いろいろな位置を表すのにどんなものがあれば便利ですか。

例) 地図／

【2】会話例に沿って、p10、11の絵を使いながら、学習者＝ハンさんの設定で、やり取りを試みましょう。

【3】学習者が実際に引っ越しのあいさつをしたら、自分の家の位置等、どう言えばいいか、考えましょう。

近所の簡単な地図を書いてもらい、どの家に行くかを考えたり、何を持って行くかアイデアを聞いたりしてみてもいいでしょう。

【4】【3】の設定で、引っ越しのあいさつを試みましょう。

【4】のために、どんなものが準備できますか。

例) プレゼントに見立てた箱／

ステップ3

- 【1】 家族の呼び方について、話し合ってみましょう。「夫、妻」は他の言い方を知っているかもしれませんね。📖p188 **生活でよく使うことば14「家族」**
- 【2】 人の数え方を覚えます p188 の絵を使って、人を数えてもいいですね。
📖p187 **生活でよく使うことば12「人の数え方」**
- 【3】 イラストや写真などを使って、架空の家族について話すことから始めると、抵抗がないかもしれません。学習者との距離が縮まれば、お互いの家族について話す機会もあるでしょう。
- 【4】 ステップ1～3をひとつの場面として、通してやってみましょう。

+1 !

「おはよう」と言うか「おはようございます」と言うか、相手との関係や、場面によって変わってきます。あるいは、「やあ」「あら」「どうも」と言う場合もあるのではないのでしょうか。また、職場では「さようなら」ではなく「お先に」や「失礼します」、「お疲れ様でした」などを使うかもしれません。学習者が日本語を使う場面に応じて、必要なあいさつを紹介しましょう。

名前のしくみは文化によって驚くほど違います。学習者は、日本でどう名乗ればいいのか戸惑うこともあるでしょう。役所や病院の窓口で名前を呼ばれて自分だとわからなかったということがないように、いろいろな場面での名乗り方を一緒に考えておきましょう。

第2課

【目標】店で表示や店員とのやり取りを通して、ほしいものが探せる

また、アレルギーや宗教上の理由で食べられないものについての語彙や表示がわかる

▶かつどう1 「スーパーで買い物する」

【ウォーミングアップ】

- (1) どんな店を知っているでしょうか。近隣の店を話題にしましょう。
(2) ①チラシ／広告 ②レジ／会計 ③店の人／店員



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 普段どんな店で買い物しているか話してもらう／

ステップ1

<見てわかる>

- 【1】p18のイラストや実際のチラシなどを使って、食料品や日用品の名称を確認します。
【2】p17の売り場表示を見て、食料品や日用品と、その売り場が結びつくようにします。



すべての漢字が読めなくても、一文字でも意味がわかれば、それをヒントに売り場を探すことができます。ここでは、漢字が読めるようになることを目指すのではなく、最初の一步として表示と探しているものを結びつけることを目標とします。



売り場で見える漢字を「マーク」のように覚えるゲームを考えてみましょう。どんなものを準備すればいいですか。

例) 漢字と食品や日用品のイラストを描いたカード／

- 【3】p17, 18のイラストを見て、それぞれの商品がどこにあるか探します。

魚 ②	肉 ②	野菜 ①	卵 ⑤
塩 ⑦	カップラーメン⑧	ビール ⑩	チーズ ③
ティッシュ ⑨	冷凍食品 ⑬	米 ⑥	お菓子 ⑫

- 【4】学習者の買いたい食品や日用品がどの売り場にあるか、p17の売り場表示を使って探してみよう。

<聞いてわかる>

支援者が店員役になり、学習者が手に入れたいと思っている食材や、必要な日用品についてどこにあるか質問してもらいましょう。

ステップ2

【1】 p18 下のイラストを見て物の名前を確認します。

【2】 支援者が店員役になります。学習者が実際に買いたいと思っているものがあれば、ぜひそれを使ってやってみましょう。



買いたいものが売り場がないという状況を設定しましょう。店員の答え方が少し違っていても聞き取れることが大切です。



実際の店の様子を思い浮かべながら、店員の応答を工夫してみてください。
近隣の店では他にどんなことを言っていますか。

例) ・「ちょっと、お待ちください」→ 「少々お待ちください」
・「申し訳ございません」→



売り切れていた場合、入荷時期を聞く「いつ入りますか」という表現を紹介してもいいですね。

ステップ3

【1】  p27 **生活便利手帳 1**

アレルギーや、宗教上の理由で食べることができないものはないか、話し合ってみましょう。
もし、あれば、書きとめておきます。メモを携帯すれば、いつでも必要なときに提示できます。

 『わたしの生活ノート』 p9、p11



食品表示はどこにどう書かれているか、実物を見てみましょう。表示の例として、どんなものが準備できますか。

例) カップ麺／

【2】 【1】 で確認した食べることができないものをはっきりと伝えられることを目指します。



食べることができないものを伝えることは、買い物するときだけでなく、外食するときにも必要です。

ステップ4

【1】 まず、数字を正確に聞き取ることが大切です。  p182 **生活でよく使うことば2「数字」**
支援者が言った数字を表の中から探したり、書き取ったりしてもらいましょう。

【2】 いろいろな金額で会計してみましょう。



レジで聞くいろいろな表現を書き出してみましょう。

例)「〇〇円お預かりします」／



スーパーのレジで「袋はどうしますか」と聞かれることが多くなりました。袋が有料である場合や、いら
ないと答えれば袋代を引いてくれたり、ポイントがついたりする場合があります。生活情報とともに、そ
の応答も知る機会です。👉 p28 **生活便利手帳 2**

▶かつどう 2 「デパートでほしいシャツを買う」

【ウォーミングアップ】

(1) ①T シャツ ②スカート ③ジーンズ／ズボン ④靴 ⑤かばん／バッグ ⑥帽子



これ以外に、お互いが身につけているものについて話してもいいですね。話の中で学習者が興味を持って
いるものがわかれば、それを話題に、各ステップをやってみましょう。

- (2) デパート、スーパー、商店街など、具体的な店名が出るかもしれません。また、カタログ通販やイ
ンターネット通販の利用も増えています。
- (3) 「安いから」、「店員が親切だから」など、値段、品質、サービス、立地といったいろいろな面の答
えを引き出しましょう。支援者自身の場合について話すことで、話題が広がります。
- (4) 答えが出にくい場合は、p173にある対訳付き形容詞の表を見るとヒントになります。



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) スーパーとデパートの違いについて話し合う／

ステップ 1



スカート、セーターといった品名だけでなく、婦人服、子供服のように大きな区分で売り場を聞くほうが
便利な場合も多いです。

【1】 買いたい物についてお互いに聞き合います。それが何売り場にあるか考えてみましょう。

【2】 階数の言い方を確認します。👉 p186 **生活でよく使うことば 8 「階」**



建物に使う「階」とカードの支払いに使う「回」は発音の違う箇所に気をつけてください。
「3階」は「さん**が**い」、「3回」は「さん**か**い」となります。同様に「何階？」は「なん**が**い」、「何
回？」は「なん**か**い」です。

【3】 p23 のイラストを使って、売り場はどこか、学習者に聞いてもらいましょう。

【4】 【1】 で話題に出た買いたいものを取り上げ、売り場はどこか、学習者に聞いてもらいましょう。



デパートでの買い物をイメージするために、どんなものがあれば便利ですか。

例) デパートの広告／フロアマップ／



店員の敬語を使った応答は聞いて理解できることを目指します。実際の店では、階を答えるだけでなく、店内図を見せながら、そこまでの行き方を説明してくれるかもしれませんね。

ステップ2

【1】 好きな色や柄について話し合ってみましょう。👉 p186 **生活でよく使うことば9「色・がら」**

【2】 会話例を参考に、色や柄など、ほしいものを詳しく説明します。



希望の色や柄がないといわれた場合、どうしますか。いろいろな対応を考えてみましょう。

例) 他店から取り寄せてもらう／

ステップ3

【1】 身に付けるものは、それぞれ、「着る、履く、かぶる」と異なる動詞を使います。他に、「めがねをかける」「時計をする」なども含め、身近なものを使って確認しましょう。

【2】 服を買うとき、サイズがよくわからなければどうするか聞いてみましょう。

「着る」「履く」「かぶる」などの使い分けが難しい場合、「試着してもいいですか」と言えればいいですね。

【3】 サイズが合わなかった場合、どういえばいいか話し合ってみましょう。p24 の3) では、「もう少し～のがありますか」ではなく、「M サイズはありますか」という言い方も紹介しています。

【4】 会話例を参考に、学習者が実際に買いたいものについて試着を頼む場面を設定し、やってみましょう。

 気に入ったものがなくて、買わずに店を出るとき、どう言えばいいでしょうか。学習者の国ではどうするのか聞いてみるのもいいですね。また、日本ではどうする人が多いか、考えてみてください。

「また来ます」／

ステップ4

- 【1】買い物の支払いにカードを使うかどうか話し合ってみましょう。
- 【2】カードで支払うとき、どんなことを聞かれるか、何をしなければならないかなど知っておくべきことについて話し合ってみましょう。国によっていろいろ違うかもしれませんね。
- 【3】回数の言い方を確認しましょう。👉 p186 **生活でよく使うことば10「回数」**
- 【4】クレジットカードでの支払いで、希望の支払い回数が答えられるように、やり取りをしてみましょう。

▶こんなとき どうする？

返品、交換については店によって対応が異なりますが、問い合わせる方法を知っておくと安心です。クーリングオフなど対処が難しい場合、独力で解決しようとせず、専門の窓口にご相談できるよう情報を提供しましょう。

👉 p28 **生活便利手帳3**

▶これだけ 漢字！！

食料品の買い物で知っておくべき語彙を集めました。読む書くではなく、見てわかることを目標にします。商品のパッケージのどこに表示されているか、どんな意味があるかを紹介します。

 チラシやパッケージなど実物を使って、同じ漢字を探すゲームもできます。どんなものが準備できますか。

例) スーパーのチラシ／

+1 !

質問することができても、相手の答えがわからなければ意味がありません。「～はありますか」という質問に対して「売り切れました」あるいは、「明日入ってきます」という答えが返ってきたとき、理解できることが大切です。

第3課

【目標】電車やバスなど公共交通機関が利用できる

▶かつどう1 「電車で出かける」



ここには、JR 三ノ宮駅を中心にした情報しかありません。一般的な例として、このまま使うこともできますが、地域のみなさんが利用する路線に置き換えれば、より身近な情報が共有できます。



地域のみなさんが利用する路線の情報に置き換えるために、どんなものがあればいいですか。

例) 路線図／時刻表／

【ウォーミングアップ】

- 1) ①改札口（自動改札）②切符を買う・・・券売機、切符売り場
- 2) ③（プラット）ホーム 電車を待つ／電車に乗る／電車を降りる



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 電車を利用した経験について聞いてみる／

ステップ1

駅にあるいろいろな形式の運賃表を見ながら、駅名や運賃の情報を得ます。漢字、ひらがな、ローマ字など表記もいろいろあります。📖 p45 **生活便利手帳 1**

【1】p33 右にある運賃表は三ノ宮駅のものです。駅名は漢字のみとローマ字併記のものがあ
ります。必要に応じて、読み方を確認しましょう。

【2】表の数字は運賃を示していますから、「300 円」のように読みます。

【3】運賃表を見ながら、三ノ宮駅からの運賃を調べましょう。

例) 「今、三ノ宮にいます。西宮へ行きます。いくらですか。」

漢字が読めない場合は、p45 **生活便利手帳 1**にあるひらがな表記の点字運賃表も利用で
きます。

ステップ2

行きたい駅名を正確に相手に伝えることができるようにします。p33にある券売機画面の写
真を使って、お金を入れる場所や、押すところの位置を確認しましょう。実際に駅で試してみ
る機会があるといいですね。

- 1) 灘 120 円 2) 神戸 120 円 3) 自由に選んでください

ステップ3

駅で発車案内標示を見ながら、どの電車に乗ったらいいかを聞きます。

【1】時刻の言い方を確認します。📖 p184 **生活でよく使うことば5**

【2】のりばを示すには、p30③の写真も使えます。(3番のりば)

【3】会話例を参考に、学習者=Aで、やり取りしてみましょう。支援者はp34にある駅の発車案内標示を指しながら、情報を伝えます。

例)	西宮	2番のりば	13時11分発	快速
1)	灘	2番のりば	13時15分発	普通
2)	姫路	4番のりば	13時7分発	新快速



発車案内標示には、いろいろな情報が含まれています。難易度ではなく、学習者にとっての必要度に応じて、何をどう扱うか考えてみましょう。たとえば、「新快速」を利用する必要があるなら、文字を覚える、3文字であることに注目する、赤で表示されていることを覚えるなど、いろいろな方法があります。



地域、鉄道会社、路線によって、用語が違います。身近な路線では、どう言いますか。置き換えて練習するために整理しておきましょう。

例) 普通電車⇒各停(各駅停車) / 快速⇒急行 / 1番のりば⇒1番線

<聞いてわかる>

ステップ4

駅のホームに到着した電車を指して、自分の降りたい駅に止まるかどうか確認します。

【1】「普通」「快速」「新快速」などが聞き取れるようにします。

【2】場面を設定しましょう。

例)「三ノ宮駅にいます。西宮駅へ行きます。今、電車が来ました。この電車に乗ってもいいですか。」

【3】学習者が実際に行きたい駅名を使って、やり取りしてみましょう。ステップ3と、ステップ4の会話例に出てくる表現を使っていろいろなバリエーションで答えてみてください。

<見てわかる>

停車駅標示を見て、駅ごとに止まるか止まらないかを確認します。

電車の種類、駅名、標示の○印(停車することを示す)などいろいろな情報が含まれています。

(p35はJR三ノ宮駅の標示)



トラブルに対処するための情報も必要です。こんな場合、どうしますか。また、他にどんなトラブルがありますか。

- ・切符を買い間違えたら→
- ・ICカードの残金が不足していたら→
- ・車内に忘れ物をしたら→
- ・
- ・

▶ かつどう 2 「バスに乗る」

【ウォーミングアップ】



普段よくバスを利用している場合と、そうでない場合では、進め方が変わってきます。また、出身地と比較することで、日本のバスについて学習者が持っている情報が確認できます。

- 1) ②バス停、バス乗り場、バスターミナル ③ワンマンバス、料金箱、整理券、座席など
- 2) ①740 円 ($210 \times 3 + 110$) ②先払いか後払いか、路線やバス会社によって違います。



地域みなさんがよく利用するバス会社や路線についての情報を得るために、どんなものが necessary ですか。

例) バスの路線図／



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 地域でバスを利用した経験について聞いてみる／

ステップ1

たくさんのバスが発着するバスターミナルで、目的のバス停を探します。

応用として、近くにバス停が見当たらないような場面も練習できます。

練習例) A: すみません。〇〇行きの バス停はどこですか。

B: あそこのスーパーの前ですよ。／反対側に渡って北へ 300m 歩いたところです。



行き先を示すとき、「～ゆき」と言ったり、書いたりしますが、学習者は、これが「行き」の意味だと気づかないかもしれません。小さな音の変化が、大きな壁になる例です。

ステップ2

【1】 p45 **生活便利手帳 3** バスのシステムを見てください。

【2】 できれば、地域のバスをいくつか例に挙げて、具体的な料金の支払い方を確認してみましょう。

ステップ3

料金が正確に聞き取れるかがひとつの目標です。

整理券の番号と「券なし」の意味を確認し、学習者=A で、やり取りをしてみましょう。

1) 1250 円 2) 210 円 3) 270 円



教科書を見ながら進めることもできますが、番号を書いた手製の整理券など、小道具を使ってみると、より自然なやり取りができます。また、料金が聞き取れたかどうかは、書いてもらうなどして確認しましょう。聞き取りが不安な場合でも、車内の料金表の見方を知っていれば、対処できますから、p40 の表を使って、整理券と料金の見方を確認しておきましょう。

ステップ4

 両替したいことを伝える表現は他にもあります。考えてみましょう。

例) 両替したいんですが・・・／どうしたらいいですか。(1000 円札を出す)／



1 万円札、5000 円札は、車内で両替できない場合が多いですね。また、1000 円札だけでなく、100 円玉、500 円玉の両替が必要な場合もあります。料金箱に入れてもおつりは出ず、先に両替をして、ちょうどの金額を料金箱に入れなければならない場合もあるので注意が必要です。身近なバス路線ではどうですか。

▶ かつどう 3 「窓口で切符を買う」

【ウォーミングアップ】

新幹線の利用について学習者が何をどのくらい知っているか確認します。新幹線だけでなく、地域で利用することの多い特急列車について話してもいいでしょう。

(1) 新幹線を使った旅行を計画します。いつ、どこへ、誰と行くかを設定し、どんな種類の切符を買えばいいか表に記入していきます。



ただ書くだけでなく、会話を通して決めていく過程も自然な練習となります。たとえば、窓側と通路側はどちらを選ぶにしても何か理由があるでしょう。それを話し合ってみるのもいいかもしれません。また、支援者も同じように予定表を作ってみると、p42 の会話例でバリエーションを増やすことができます。

(2) p41 で記入した表を見ながら、窓口でどう伝えるか、やり取りをしてみましょう。指定席と自由席では内容が変わるため、いろいろなパターンが練習できるといいですね。



このメモは、実際に駅へ持って行って、窓口で見せれば、簡単に切符を買うことができるようになっていきます。学習者が口頭でのやり取りに自信がなくても行動に移せるよう、活用してください。

▶ こんなとき どうする？

「ことば・ひょうげん」には、駅や車内のアナウンス、電光掲示等で使われる定型表現をまとめました。駅のアナウンスはすべてを聞き取る必要はありません。キーワードをキャッチできるかどうか大切です。

【1】説明文から、いつ、どこにいて、何がしたいか、理解します。

17 時 15 分に西宮駅のホームにいます。三ノ宮駅へ行きたいです。

【2】路線図で位置を確認しておきましょう。

【3】駅のアナウンスを読み上げ、聞き取れた情報を話してもらいましょう。

①西明石駅

②今、西宮から芦屋までは普通列車で行けますが、芦屋から三ノ宮へは JR では行けません。運転再開まで待つか、行くのをあきらめるか、他の交通機関を使っていくか、答えは一つではありません。それを話し合うことを通して、学習者により多くの情報を伝えることができます。

▶これだけ 漢字！！

- よく利用する駅名は、はっきり発音できること、文字でどう表記するか知っていることが、大切です。
- ①ちゅうおうぐち ②きたぐち ③みなみぐち ④ひがしぐち ⑤にしぐち ★④
- 女の人
- ③駅のアナウンスは聞き逃してしまうことも多いかもしれません。発車案内標示にも情報が出ていることを示しています。



駅は待ち合わせにも、よく使われます。出口の案内板には漢字表記に英語等が併記されていても、どう読むかは書かれていません。「ちゅうおうぐち」と聞いて「中央口」に結び付くようにしましょう。



駅や、電車、バスの車内で見かける注意書きやマークで、知っておいたほうがいいと思うものはありますか。

例) 駆け込み乗車はおやめください／終日禁煙

地域でよく利用されている交通機関にはどんなものがありますか。それについて知るためにどんなものが準備できますか。

例) 高速バス／コミュニティバス／フェリー／

第4課

【目標】郵便のシステムを知り、国内外に郵送できる
また、ATM画面を見て、必要な操作ができる

▶かつどう1 「海外に荷物を送る」

【ウォーミングアップ】

郵便局のマークや、郵便局でできることを知っているかどうか確認してみましょう。

- 1) ①郵便局 ②ポスト ③手紙 ④切手
- 2) 手紙を出す／荷物を送る／お金を送る／貯金する／ATMでお金を出す など



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 海外に荷物を送った経験について、だれに、何を、どうやって送ったかなど話し合ってみる／



窓口での応答に困ったことはなかったか、送り状の書き方はわかるかなど、学習者の経験を聞くことに加えて、支援者の方からも難しいと思うことなどを話題にできますね。

ステップ1

生活便利手帳 1 p63 を見ながら、海外へ送る場合のいろいろな方法の特徴を確認します。
実際に使ったことのある送り方についてなど、具体的なことを聞いてみましょう。

ステップ2

p51 の「国際郵便料金表」は日本からオーストラリアへ荷物を送るときのものです。

【1】表の見方を確認します。

【2】オーストラリアの友人にプレゼントを送るという設定で、郵便局の窓口で話します。

ステップ3

【1】p51 下にあるマークを見て、「航空便・SAL・船便」という語彙を覚えているかどうか確認しましょう。

【2】期間の言い方がわかるかどうか確認します。👉 p186 **生活でよく使うことば「期間」**

【3】窓口で、何日かかるか聞き、送り方を決めます。



p64 「便利なひょうげん」を参考に、会話を発展させてもいいですね。

ステップ4

海外に送る場合、住所の書き方などが日本とは異なります。記入しなければならない項目を確認しながら実際に書き込んでみましょう。

実際に書き込んでみるために、どんなものが準備できますか。👉 **『わたしの生活ノート』** p14

例) EMS の送り状 (実物) ／



ステップ2から4までの会話をつなげると、ひとつの場面になります。まとめとして、通してロールプレイをしてみてもいいでしょう。基本的なやり取りができれば、次に学習者自身が送り先を決めたり、送るものを考えたりして、実生活で必要な場面に近づけた設定に挑戦しましょう。

 実際のやり取りをしてみるために、どんな情報が必要ですか。

例) 国際郵便条件表 (国・地域別情報) /

▶ かつどう2 「国内に荷物を送る」

【ウォーミングアップ】

日本国内で送ることのできるものについて話し合ってみましょう。

手紙・書類・シャツ (衣類)・CD ディスク・本・野菜・魚 (生鮮品)・パソコン・ワイン・ゴルフバッグ等 他にもスキーや旅行かばんなども送ることができます。



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 日本国内で、どんなものをどうやって送ったことがあるか経験を話し合う /

ステップ1

生活便利手帳2 p63～64 を見ながら、国内で送る場合のいろいろな方法の特徴を確認します。実際に使ったことのある送り方についてなど、具体的なことを聞いてみましょう。

ステップ2

【1】それぞれの送り方に、同封してはいけないものという制限があることを示します (p55 下の表参照)。

【2】会話例に沿って、入れてはいけないもの、重さなどを確認し、送り方を決めます。送る品物を変えて、やりとりをしてみましょう。



教科書を見ながら、会話例の空欄に下表からことばを入れていくこともできますが、学習者が「できた!」という達成感を味わえるように、もう一工夫してみましょう。たとえば、いろいろな品物を書いたカードを準備すれば、学習者はその中から品物を選ぶというステップが加わります。文字で書かれたカードなら、読む練習になり、絵で描かれたカードなら、ことばを確認することができますね。

ステップ3

【1】送り状に記入する項目を確認します。

【2】送り先、品物を決め、実際に記入してもらいます。



自分の住所氏名を書く練習の機会です。また、郵便番号についても知っておくと便利です。



住所氏名の書き方を練習するために、どんなものが準備できますか。

例) 送付状の手書きのお手本／

【3】学習者の出した送り状を見ながら、やり取りします。窓口の人の質問に対する答えは、空欄になっています。学習者が自分で考えるようにしましょう。

▶こんなとき どうする？

＜郵便局の不在通知を見てわかること＞

1) ヒョウゴ タロウ 2) コウベ ハナコ 3) 3月11日 4) 3月18日

＜再配達を頼む＞

1) 0800-0800-888 2) 0503-155-3917 3) 「ゆうびん 再配達」で検索する／QRコードを読み取る 4) ①～⑤ 全問○ (いろいろな方法があることに気づくための設問です)



不在連絡票(再配達連絡票)を受け取っても、どうすればよいのかわからず困るという場合が多いようです。細かい字で漢字も多く、たくさんのことが書いてあるので、あきらめてしまうのかもしれませんが、読み取るべき情報さえわかれば対処できます。

すべてが読める必要はありません。学習者自身がやりたい、あるいは、できると思う方法を選び、そのために必要な情報がどこに書かれているかを知ることが大切です。

▶これだけ 漢字！！

ATMをどのように利用しているか話し合ってみましょう。

① (カードだけの場合は4、通帳も持っている場合は5) ② (3) ③ (1) ④ (2)

やってみよう！

(1) 1 (2) 2にカードを入れる (3) 通帳を持っている場合は開いて入れてから、暗証番号を押す。通帳を持っていない場合は、そのまま暗証番号を押す。(4) 2 (5) ①30000 または 3と万 ②確認 (6) ①必要 ②409,900円



漢字学習を通して、ATMの使い方を実践してみましょう。

第5課

【目標】パソコンで日本語入力ができる

▶かつどう 1 「ひらがな・カタカナをパソコンに入力する」

※この課は、レベル別になっていません。インターネットをよく使う環境にあれば、日本語のレベルに関わらず、日本語入力の習熟度が高いかもしれないからです。学習者の状況に応じて、メール送信など活動の内容を考えましょう。

【ウォーミングアップ】

学習者は、パソコンを何に利用しているでしょうか。また、日本語入力の経験はあるでしょうか。

- (1) ①コンピューター／パソコン／デスクトップパソコン／PC など
- (2) メールを送る／インターネットで検索する／レポートを書く／動画を見る／音楽を聞く／写真・ビデオを整理する／ゲームをする／買い物する／ドラマや映画を見る／ニュースを見る など



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) パソコンでどんなことをしたいか聞いてみる／

ステップ1

p69 の表を使い、文字を指して読み方を確認します。



ひらがな、カタカナの読み方を確認するため、他にどんな練習ができますか。

例) 一文字ずつ書いてあるカードを使う／

ステップ2

- ① まず、耳で聞いた音を文字にすることができるかどうか確認するために、一文字ずつ言い、ひらがなあるいはカタカナで書きとってもらいます。
- ② ③ 単語や文が書けるか確認します。小さい「っ」や、長い音、助詞「は」「へ」「を」の表記にも注意しましょう。



話せるからといって書けるわけではありません。文字に慣れていない学習者には、段階を追った丁寧な練習が必要です。

ステップ3

- ① ローマ字表記ができるかどうか確認します。わからない場合は、p72 の「ローマ字入力表」を見ながらやってみましょう。「さくら」→「sakura」



ローマ字表記をほとんど使わない国もあり、だれもがローマ字を知っているわけではありません。パソコン入力に入る前に、日本語をローマ字で書くことができるかを確認しておきましょう。

- ②～⑤ 実際にパソコンを使って入力のやり方を確認します。ローマ字で入力し、変換キーを使って漢字、ひらがな、カタカナに変えられること、エンターキーで確定することを確認します。p70 の表には、学習者がよく間違えるものをまとめました

入力練習にどんな機器が準備できますか。

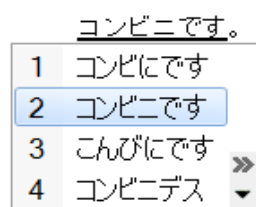
例) ノートパソコン／タブレット／スマートフォン／

ステップ4

- ① 一文字ずつ、あるいは1行ずつ、ひらがな五十音を入力します。ひらがな、カタカナのみを入力する場合、エンターキーを押す前にスペースキーを押すと漢字に変換されてしまうので、注意が必要です。入力モードをカタカナに変更してカタカナでも練習しましょう。
- ② ひらがなだけの文です。スペースキーを使って、分かち書きをしてみます。助詞の「は」は「WA」と発音しますが、「HA」と入力しなければならないことに気をつけましょう。
- ③ ひらがなとカタカナが混じった文を入力する場合、その都度、入力モードを切り替えるのは手間がかかるので、以下のようにひらがなからカタカナに変換する方法が手軽です。

例1) ひらがなモードで入力 「コンビニです。」

⇒スペースキーを押して候補から選択

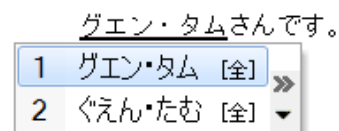


例2) ひらがなモードで入力 「ぐえん・たむさんです。」

⇒カタカナにする部分を選択「グエン・タムさんです。」

⇒F7キーを押す 「グエン・タムさんです。」

あるいはスペースキーか、変換キーを押して候補から選択



- ④ 学習者が自分の名前を入力します。出身によって、漢字、ひらがな、カタカナに変換します。
- ⑤ 住所を入力して漢字変換します。事前に、表記を確認しておきましょう。住所には、漢字だけでなく、ひらがな、カタカナが含まれることも多く、数字やハイフンも入力しなければならない点が難しいです。
- ⑥ 自由に日本語を入力します。



どうしてそのことばを選んだのか話してもらおうと、話題が広がりますね。思い通りの表記にならない場合、何が問題なのか考えましょう。その人の発音の問題と関係していることも多いです。

+1 !

日本語入力ができるようになると、いろいろな活動ができますね。

☞『わたしの生活ノート』p7で手書きの名刺を作っていたら、それをもとにオリジナル名刺が印刷できます。

また、休む連絡やメールの返信などの練習も、生活に役立つでしょう。☞『わたしの生活ノート』p16~18

第6課

【目標】病気の症状を伝え、薬局で薬を買ったり、病院を探したりできる
また、病院で診察を受けるために必要な一連のことができる

▶ かつどう 1 「病院を探す」

【ウォーミングアップ】

病院に関わることばを知っているかどうか確認しましょう。また、病気やけがのとき、どうするか聞いてみましょう。

- ①病院 ②医院／診療所／クリニック ③薬局／薬屋／ドラッグストア ④医師／お医者さん／ドクター ⑤看護師（さん） ⑥眼科医／目医者（さん） ⑦歯科医／歯医者（さん） ⑧薬／飲み薬

 他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 病院や薬局が町のどこにあるか聞いてみる／

 近隣の病院、医院について、診療科、診察時間、休診日、あるいは経路など、学習者はどんな情報を必要としていますか。また、地域ならではのサポート情報がありますか。

例) 市や町の公式サイト医療機関一覧／

ステップ1

《症状を人に伝える》

- ・身近な人に症状を伝える場面です。

【1】p76～p77の「ことば・ひょうげん」とイラストを参考に、症状を伝える言い方を確認します。👉 p189 **生活でよく使うことば15「体」**

【2】会話例では「～んです」という文型を使っていますが、難しければ「～です」「～ます」に変えましょう。

《薬局・ドラッグストアで薬を買う》

- ・市販薬を買うために、店で症状を伝えます。他に飲んでいる薬やアレルギーがある場合は「お薬手帳」を持参します。👉 p90 **生活便利手帳2** 📖 『わたしの生活ノート』p20

【3】市販薬を買ったことがあるかどうか聞いてみましょう。経験があれば、どのように症状を伝えたか、お薬手帳を持参したか等、その時の状況を詳しく話してもらいましょう。

【4】p78のイラストや、【3】で聞いたことも含め、わかりやすい伝え方を考えてみましょう。実際には、主症状だけでなく、熱はどのぐらいあるか、痛みはいつからかなど、いろいろな説明を求められることがありますね。

実際の薬局でのやり取りをイメージするのに、どんなものがあれば便利ですか。

例) お薬手帳／市販薬の空箱／ドラッグストアのチラシ／

ステップ2

【1】 p79 のイラストを見て、症状の伝え方を確認しましょう。

【2】 p79 の地図で、目印となる建物、また、「～の近く」「～の前」など位置を示すことばを確認します。

【3】 会話例を参考に、支援者は病院の場所を伝えましょう。「地図をかく」、「一緒に行く」以外のサポートの提案も考えてみてください。

【4】 地域の実際の病院の名前や場所などに置き換えて、やり取りをしてみましょう。



p90 **生活便利手帳 1** に診療科がまとめてあります。病院以外に内科、耳鼻科などの医院についても地域ならではの情報交換ができると思います。

ステップ3

【1】 学習者の母語に置き換えて、「〇〇語がわかる病院」という言い方を覚えます。



p90 **生活便利手帳 3** に、情報があります。学習者の母語に対応している病院があるかどうかインターネットで調べることができます。

【2】 病気になったとき、学習者に必要な情報を一緒にまとめてみましょう。👉『わたしの生活ノート』 p21

近隣の医療機関情報を知るために、どんなものが役に立ちますか。どこで手に入りますか。

例) 市町の広報紙（休日診療）／地図／

▶ かつどう 2 「病院で診察を受ける」

【ウォーミングアップ】

(1) ①受付／総合案内 ②薬局 ③健康保険証 ④診察券 ⑤問診票 ⑥お薬手帳

(2) (3) 通院、入院だけでなく、健康診断、お見舞いで行く場合もあります。国や文化によって病院のシステムが違うことを知っているか確認しておきましょう。



病気については個人的なことでもあるので、どこまで聞いたり話したりしてもいいか注意する必要があります。



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) マスクなど予防のための身近な健康グッズを見せて知っているかどうか、どう使うかなど話し合ってみる／

ステップ1

受付で持っているかどうか聞かれる物です。ウォーミングアップでも触れましたが、ここでもう一度、それぞれの名称をしっかりと確認しましょう。

ステップ2

【1】「多言語医療問診票」は、現在、18 言語、11 科目に対応し、症状からも必要な問診票が探せるようになっています。学習者に必要なものをダウンロードします。👉 p90 **生活便利手帳 4**

【2】記入する項目を確認します。



多言語医療問診票のメニューページの日本語版はこちらで見ることができます。

<http://www.kifjp.org/medical/japan/index.html>

各科の問診票はすべて、日本語が併記されています。

ステップ3

【1】受付から診察、会計、薬の受け取りまで、順を追ってどこで何をするか、確認しておきます。👉 p90 **生活便利手帳 4**

【2】初診と再診では受付でのやり取りが違うことを確認してください。ただ話すだけでなく、見せる、手渡すという動きもあわせてやってみましょう。

📁 受付でのやり取りに必要なものが準備できますか。学習者自身に持参してもらうのもいいですね。

例) 診察券／

ステップ4

症状を伝え、医師の指示が理解できることを目指します。

【1】診察での質問や指示を確認します。



診察でよく使われる指示にはどんなものがありますか。

例) 横になってください／前を上げてください／

【2】熱の言い方を確認します。「〇度〇分^{どぶ}」

【3】「薬〇日分」という言い方を紹介します。📖 p186 生活でよく使うことば 1 1 「期間」

【4】医師のことばがわからないとき、どう言えばいいか考えます。病院に限らず、いろいろな場面で役に立ちます。

【5】p87 の会話例を参考に、医師に質問したいことを考えましょう。

【6】学習者に、どんな症状で診察を受けるか考えてもらい、会話例を参考に診察室でのやり取りをやってみましょう。

ステップ5

【1】p89「これだけ漢字！！」で取り上げている漢字を見て、薬袋のどこに書いてあるか、どんな意味かを確認します。

【2】p88 の薬袋を見て、何が書いてあるか情報を読み取りましょう。1 日に何回飲むのか、何日分か、いつ、どんな薬をいくつ飲むのか、薬袋のどこを見ればわかるかを確認します。

【3】会話例を参考に、薬剤師に言われたことを理解し対応できるかどうか確認しましょう。わからないことがあれば、聞きなおしたり、問い返したりできるようにしたいですね。

 インフルエンザのように、学校や職場に行ってはいけない場合もあります。その際、学校や勤め先にどのように連絡すればよいか知っておいたほうがいいですね。

▶これだけ 漢字！！

飲み薬以外に、塗り薬、貼り薬等も紹介しましょう。 1) ① 2) ② (朝・昼・夕) 3) ③

+1 !

病気になったり、けがをしたりしたときは、だれでも不安になり、あわててしまいます。

普段ならわかるはずのことも、わからなくなってしまうかもしれません。緊急のとき、どうすればいいか、何が必要かを心得ておくことに加え、人に伝えることでサポートが得られると知っておくことも必要ではないでしょうか。

学習者が必要とする情報を、支援者がすべて準備すると、学習者は受け取るばかりになってしまいます。時には、一緒に調べる方法を考え協力して実践してみる工夫をしてみませんか。やる気を引き出し、達成感に結びつく活動になるはずです。

第7課

【目標】緊急時に電話通報ができる

また、災害への備えと、避難についての情報を得て、いざというときに対処できる

▶かつどう1 「近くの人に助けてもらう」

【ウォーミングアップ】

それぞれの場面に遭遇したとき何と言うか、学習者と一緒に考えてみてください。現場で見ているのか当事者なのかによって言うべきことが違うので、いろいろな場合を設定します。アクシデントに見舞われたとき、とっさの一言が出るように備えましょう。

以下は一例です。()内は、何が起きているかを伝えるときに使うことばをあげました。

- ①「泥棒！」(ひったくり) ②「助けて！」(痴漢／不審者／ストーカー) ③「誰か来て！」(けんか／殴り合い) ④「救急車を呼んで！」(事故／けが人) ⑤「泥棒！」(泥棒／侵入者)

 他にどんなウォーミングアップができますか。

例)

▶かつどう2 「110番に電話する」

【ウォーミングアップ】

- 1) ①交番 ②警察官／警官 ③パトカー (パトロールカー)

 他にどんなウォーミングアップができますか。

例) どんとき交番へ行くか、町のどこにあるかなどを聞いてみる／

ステップ1 110番通報について、基本的な情報を知っておきます。📖 p110 **生活便利手帳 1、2**

ステップ2 【1】p94、97の絵を見て、事件か、事故か言えるようにします。

 110番通報するのは、どんな場合ですか。事件と、事故に分けて整理してみましょう。

事件・・・

事故・・・

【2】「事故です」「事件です」といったあとに、できれば説明を付け加えます。どんな説明ができるか学習者に考えてもらいましょう。

ステップ3

【1】場所を伝える言い方を確認します。実際の場所について、どう言えば伝わるか考えてみましょう。



場所を伝えるのに目印になるものがあるとわかりやすいです。近隣で目標物としてよく使われる建物や公園はありますか。それを使って場所を伝えることを考えてみましょう。

例) ○○銀行の前です／



ここでの目標は、場所を伝えることです。完全な文で言えなくても、「HAT こうべ、美術館、近く」と並べるだけでも伝わります。緊急時をイメージし、まずは、伝えることを目指しましょう。

【2】名前と電話番号が正確に伝えられるか確認します。



自分の住所や名前を相手に伝わるように言えることは、緊急時以外にも必要なことです。どんなスピードで、どこで区切りながら言えば、聞き取りやすいか、アドバイスしましょう。

▶ かつどう3 「119番に電話する」

【ウォーミングアップ】

1) 絵を見て、それぞれどんな場面か話し合しましょう。その上で、119番通報する場合を考えます。緊急性がない場合は、通報しないことを確認しておきましょう。📞 p111 生活便利手帳4

① ② ⑤ ⑥



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) p77 (病気、けが) の絵を使う／

ステップ1

119番通報について、基本的な情報を知っておきます。📞 p110～111 生活便利手帳3、4

ステップ2

119番通報の際の応答例です。まず、火事か救急かを伝えます。

ステップ3

P97「かつどう2」では、場所を伝える言い方を使いました。ここでは、学習者の身近な場所の住所を使ってみましょう。

ステップ4

【1】 p102 の絵を見て、どんな人が、どうなって、どんな様子かを説明してもらいます。

【2】 会話例に沿って、やり取りをしてみましょう。



一気に情報を伝えるのではなく、相手の質問にひとつずつ答えていくことを意識するなど、実際の通報をイメージしてみてください。実生活で直面するかもしれない場面を学習者と一緒に考えてみましょう。



例) 子どもがひきつけを起こした／血が止まらない／



緊急時には、パニックで日本語がうまく使えなくなることも考えられます。学習者自身がメモを作って携帯したり、目に入りやすいところに貼っておいたりすると、助けになるでしょう。とっさに意味がわかるようにそれぞれの項目を母語に訳して書いておくと安心です。☞『わたしの生活ノート』p23～25

火災通報の基本的な応答例は「総務省消防庁」(<http://www.fdma.go.jp/html/life/tel.html>) 他で確認できます。

▶ かつどう4 「災害のために準備する」

※レベル2のかつどうですが、「1. 日本の災害」は、日本で暮らす上で知っておくべきことから、レベル1でも扱ったほうがいいでしょう。

1. (1) ①地震 ②土砂災害(がけ崩れ／地すべり／土石流) ③台風／集中豪雨 ④竜巻 ⑤津波
- (2) 先に情報を出してしまうのではなく、まず、学習者はどのように考えているかを聞いてみましょう。それによって、この課でやるべきことが見えてくるでしょう。

他にどんなウォーミングアップができますか。



例) 学習者の国で起こる自然災害や、その対処法について聞いてみる／

2. 台風経路図から、どんなことが読み取れるか、話し合ってみましょう。図の左上に現在日時、右上に台風の番号が書いてあります。

①台湾のあたり ②8月31日夜から9月1日朝にかけて

〔P105 上〕危険な順に C>A>B

☞ p111 生活便利手帳 5



台風の進路や速度は刻々と変化しますから、こまめに情報をチェックする必要があります。何から情報を得ることができるか、どんなことに注意しなければならないか話し合いましょう。また、必要があれば、警報が出て子どもの学校が休校になるのは、どういう場合かの確認もおきましょう。

3. 地震情報の画面を見て、必要な情報がどこに出ているかを探し、内容を読み取ります。P105の「こ
とば・ひょうげん」を参照してください。地図で自分の住んでいる地域を探せることも大切です。
P109「これだけ漢字！！」2も参考にしてください。

①13 日午前5時33分ごろ ②例) 長田区・・・震度4 ③津波は来ません

👉 p112 生活便利手帳 6

 地域で特に気をつけるべき災害は何でしょうか。被災経験のない学習者には、どんなものを使えば、イ
メージしやすいでしょうか。

例) 地図／写真／

4. 1)

飲料水（飲み水）	③
携帯用ラジオ	④
懐中電灯	⑥
非常食	⑤
薬	②
非常持ち出し袋	①

2) 非常持ち出し袋に入れておくといいと思うものを、話し合ってください。👉『わたしの生活ノー
ト』 p29



実物や写真、イラストがあるとわかりやすいですね。どこで売っているのか、いくらぐらいかなど、話
が広がります。



この活動のために、どんなものが準備できますか。

例) 店のチラシ／

▶こんなとき どうする？

災害時にどう行動するかを例を（ア）～（エ）にあげました。

（1）＝（エ） （2）＝（ア） （3）＝（イ） （4）＝（ウ）



ただ、「そうする」というだけでなく、「なぜ、そうするのか」まで話し合ってみましょう。その中で、
他にも、すべきこと、してはならないことが出てくるはずです。

<やってみよう>



p107「ことば・ひょうげん」で、避難に関することばを確認しましょう。📖 p112 生活便利手帳 7

支援者がハザードマップを準備することは難しくありませんが、学習者が自分で入手することは大切な経験であり、自信にもつながります。実際に行動する機会を作ってみてはどうでしょう。



地域で入手できる防災関連の資料にはどんなものがありますか。

例) ハザードマップ／

▶これだけ 漢字！！



天気予報、災害情報を見るには、自分の住んでいる所が、どの地区なのかをはっきり知っておかなければなりません。県北部、県南部のような言い方や、現在の地名ではなく旧国名に由来する場合も多く、地区名を知らなければ、避難勧告が出ていても自分のいる場所だとわからないということもあります。



みなさんの地域は、新聞やテレビのニュースでどのように表示されますか。

3. ①大雨（おおあめ）B
②洪水（こうずい）A
③暴風（ぼうふう）C

+1 !

災害に備えて、今、どんなことをしておけばいいでしょうか。避難所、避難場所を地図で確認するだけでなく、実際にそのルートを歩いてみるなど、教室外の活動もいろいろ考えられます。

📖 『わたしの生活ノート』 p27、28

第8課

【目標】役所の届出に必要なことを理解し記入できる
電話でガス開栓などの申し込みができる

▶ かつどう 1 「役所で住民異動届を出す」

【ウォーミングアップ】

1) ①市役所／区役所／町役場

地域によって、役所の様子は違います。p114の写真を参考に、実際の役所の様子を話してみましょう。

2) 3) 行ったことがあるか、何のために行ったか、困ったことはないかなど、話してもらいましょう。



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 役所の場所や、行き方、開いている曜日と時間を確認する／

ステップ1

【1】どんなとき役所へ行くか、学習者にとって必要な場合を話し合います。

【2】役所へ行って担当の窓口がわからない場面を設定します。【1】で話し合ったいろいろな場合について、自分の目的を伝え、どの窓口へ行けばいいかが聞けるようにします。



地域によって窓口の名称が違うかもしれません。確認しておきましょう。

ステップ2

(1) 住民異動届／転入届／引っ越ししたときに出す届け  p126 生活便利手帳 2

(2) 市役所／区役所／町役場

(3)	① D	② B	③ C	④ A	⑤ H	⑥ G	⑦ F
	⑧ I	⑨ E	⑩ J	⑪ L	⑫ N	⑬ K	⑭ M



p118、119のそれぞれの項目には、対訳と「やさしい日本語」が併記されています。ステップ3と組み合わせて、学習者がわからない用語について意味を聞き、支援者が「やさしい日本語」で説明するという形でもいいですね。

(4) 実際に記入してみます。p118、119



ここでは、神戸市外から転入した場合の住民異動届を取り上げていますが、氏名、世帯主、生年月日、住所、連絡先、国籍等は、いろいろな場面に出てくる項目です。意味が理解でき、正確に記入できるようにしたいですね。また、口頭で質問されることもあるので、それぞれのことばを聞いて理解でき、答えられるようにする必要もあります。  『わたしの生活ノート』 p30、31

ステップ3

事前に準備していても、実際の場面ではわからないことばが出てきます。そのとき、質問したり、確認したりできるようにします。

【1】p119 下の項目を見て、わかるかどうか聞いてみます。わからない場合、どう聞けばいいか考えます。

【2】1) 2) の項目がしっかり理解できるまで、やり取りしてみましょう。



事前に準備するもの、持っていくものについて、どんなアドバイスができますか。

例) 身分証明書／印鑑／

▶かつどう2 「ガス・電気・水道の手続きをする」

【ウォーミングアップ】

- 1) ① 電気／電灯／ライト／照明 ② ガスコンロ／ガスレンジ／ガステーブル ③ 水道
A=水道メーター B=ガスメーター C=電気メーター
- 2) A、B、C、それぞれのメーターが、家のどの辺りにあるか確認します。
- 3) 転居に際して、管轄の水道局や、電力会社、ガス会社に閉栓、開栓を依頼しなければなりません。そのことを知っているかどうか確かめておきましょう。👉 p126 **生活便利手帳3**



引っ越しにはさまざまな手続きが必要です。電気、水道、ガスの開栓以外に知っておくべきことがありますか。

例) 子どもの学校への届け出 👉 p127 **生活便利手帳4**

ステップ1

【1】ガスの開栓手続きの流れを確認します。電話で申し込み→日程調整→立ち会って開栓

【2】次に手続きに必要な情報をまとめます。①から⑦の項目の意味を確認しながら、メモを作成してもらいましょう。

ステップ2

一度、ステップ1で作成したメモを声に出して読んでもらいましょう。電話の相手が聞き取れる発音ができているか確認します。

ステップ3

【1】p124 の会話例で、メモの項目がどこに当てはまるか確認します。

【2】会話例に沿って、支援者＝ガス会社の人でやり取りをしてみましょう。



電話で伝えるためには、聞き取りやすいスピード、わかりやすい発音を心がける必要があります。相手の顔を見ながら話すのとは違うことが意識できるように、工夫してみましょう。



電話でのやり取りをイメージするには、どんな方法がありますか。

例) 背中合わせで話してみる／

▶これだけ 漢字！！



公共料金の請求書や税金などの重要なお知らせ等で見える漢字を取り上げました。必要な情報を読み取り、何をしなければならないかを理解するための助けになります。すべてが読めるようになる必要はありません。

1. ① － (C) ② － (A) ③ － (B) ④ － (D)
2. ①平成26年9月の電気使用量のお知らせ
 ②2, 767円
 ③10月14日
3. 「重要」「親展」はどんな意味か、何を確認しなければならないか、話し合いましょう。

▶かつどう1 「ごみを正しく出す」

【ウォーミングアップ】

まず、学習者に、さまざまなごみをどこにどう捨てているか話してもらいましょう。地域のごみのルールについて、何を知り何を知らないか確認します。

- ①生ごみ ②コップ／カップ／割れ物 ③ペットボトル ④びん ⑤空き缶 ⑥古新聞／古紙 ⑦ソファ／家具 ⑧電子レンジ／家電
⑨ゴミ袋 ⑩クリーンステーション／ごみ置き場



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 学習者の国では、どのようなルールがあるか聞いてみる／



ごみのルールは地域によってさまざまです。ここでは、神戸市のルールに沿って分別や出し方を示しています。地域のルールに置き換えることで、学習者の生活に即したことが学べます。



地域のごみのルールをどうやって確認しますか。

例) 市町のホームページを見る／

ステップ1

p143 **生活便利手帳 1** に情報の入手方法をまとめ、p142「これだけ!! 漢字」には、ごみ置き場にある掲示の写真を載せました。地域のごみのルールに沿って、メモを作成します。



学習者のレベルによっては、多言語版ガイドブックなどで確認し、母語でメモを作成してもよいでしょう。まずは、地域のごみのルールに沿って、ごみが処理できることを目指します。

ステップ2

1) イラストだけではわかりにくい場合は、写真や実物なども活用しましょう。

【1】①～⑩のイラストで、名称を確認します。

【2】それぞれのゴミ袋には、どんなものを入れるか話し合います。

【3】①～⑩を4つに分別します。スプレー缶については注意点があります。👉 p145 **生活便利手帳 5**



イラストだけでなく、実物を使って分別ゲームをしてみると、捨て方の正解がわからないものが出てくるかもしれません。そのときは、学習者と一緒に資料を見たり、電話で問い合わせたりして、調べてみてはどうでしょう。生活の中では、学習者自身が情報を探さなければならない場面が多々あるはずです。

2) p134 の写真は、スーパーに置かれた食品トレイ、牛乳パック、ペットボトルの回収ボックスです。

【1】このような回収ボックスが、地域ではどこにあるか利用しているかどうか話し合ってみよう。

【2】どのようなルールがあるか話し合ってみましょう。

ステップ3

ごみのルールがわからないとき、近所の人に聞くことができるようにします。

【1】曜日が正確にわかっているかどうか確認します。📖 p184 **生活でよく使うことば6「カレンダー」**



曜日を示す7つの漢字は、覚えているとさまざまな場面で役に立ちます。書けるようになることや、他の読み方を知るより、まずは、マークのように漢字の形と意味が結びつくことを目指してみましょう。

【2】分別と、出す日がわからない場合、どういう聞き方をすればいいか、会話例で確認します。例以外に、p133 ステップ2のイラストも使えます。



使い捨てカイロや靴など分別に迷うものを取り上げてみると、学習者のほうからも実際に分別に困っているものがいろいろ出てきて、実生活で役立つ練習ができるでしょう。

▶こんなとき どうする？

トラブルを回避し、さらに人間関係を円滑にするには、どう答えたらいいでしょうか。まず、学習者の考えを聞き、それをもとにトラブルを招かない言い方をアドバイスしてみましょう。



「これから注意します」「教えてくださってありがとう」などの一言を付け加えるのも、いいですね。



分別や捨て方でトラブルになりそうなものには、何がありますか。

例) 油／



分別や出し方以外にも知っておくべきごみのルールはありませんか。

例) ごみ置き場の清掃や管理／

▶かつどう2 「大型ごみを出す」

【ウォーミングアップ】

(1) ①テーブル／家具 ②エアコン ③テレビ ④冷蔵庫 ⑤自転車 ⑥洗濯機（衣類乾燥機）⑦パソコン

(2)、(3) 国や地域によって異なる大型ごみの処理やりサイクル事情について話し合ってみましょう。

📖 p143 生活便利手帳2



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 処分するのに困っているものがあるか聞いてみる／

ステップ1

地域の大型ごみ（粗大ごみ）の出し方を確認します。📖 p143～145 生活便利手帳2

ステップ2

【1】大型ごみ受付センターに電話連絡したとき、何を伝えなければならないか話し合しましょう

★① 名前 ② 住所 ③ 電話番号 ④ 捨てるもの ⑤ 大きさ ⑥ 個数 など

【2】センターの人がどんなことを話すか確認しておきましょう。

【3】大型ごみシール券について、どこで手に入れることができるか、何を記入するか、どこに貼るかなど手順を確認します。📖 p144 生活便利手帳2－3



前もって、電話連絡に必要な情報を準備し、やり方を理解していると、実際のやり取りがスムーズに運びます。

ステップ3

【1】捨てるものによって個数の言い方が違います。確認しましょう。📖 p187 生活でよく使うことば13 「物の数え方」

【2】大型ごみ受付センターに電話で連絡したときの応答をイメージします。名前、住所、電話番号がはっきり言えること、手数料、番号、日付がしっかり聞き取れることが目標です。



会話例に沿って、やり取りするだけでなく、手数料、受付番号、出す日を間違えないようにメモを取りながら聞くことも必要です。電話の後、いつ、何をするか、行動を確認しましょう。



リサイクル、リユースなど、地域の取り組みを紹介してみましょう

例) 古紙回収／

▶これだけ 漢字！！

クリーンステーションの掲示板から、必要な情報を読み取ります。曜日や時間の漢字は、いろいろな場面で役立ちますから、見てわかるようになるチャンスですね。

①朝5時から8時まで ②水曜日 ③月曜日から木曜日 ④ クリーンステーションの掲示
を作るつもりで、書き込んでもらいましょう。

+1 !

ごみのトラブルに限らず、注意されたとき、どう対処するかは、
むずかしい問題ですね。実際にこの教科書を使った講座では、学
習者から経験に基づくいろいろな意見が出ました。

「これから注意します」、「教えてくださいありがとうございます」など一
言加えたほうがいいのかという生活者ならではの視点に立ったアドバ
イスに、支援する側が教えられました。

教科書の記述と、地域のごみのルールが異なる場合、どう扱えばいい
でしょうか。教科書のデータを実際の地域の状況に即して置き換える
ことで、学習者の生活に直接結びついた活動に取り組むこともできま
す。あるいは、教科書のデータと地域の実情が違う点を探してみると
いう試みは、今後、地域のルールが変わったときや、引っ越して新し
いルールを理解する必要があるときの助けになるかもしれません。

また、最初は、地域のルールを知ることを目標にし、時間をおいて、
次は近所の人とやり取りができることを目指すというように、二度三
度と違う視点で取り組むこともできます。

学習者のレベル、必要度に応じて、扱い方を工夫すれば、いろいろな
目標が設定できるのではないのでしょうか。

第10課

【目標】行きたいところについて情報を得たり交通経路を調べたりし、日本での生活を楽しむことができる

▶ かつどう 1 「日本で行きたいところについて人に情報を聞く」

【ウォーミングアップ】

p148 の地図と写真を見ながら、行ってみたいところ、行ったことがあるところについて話してもらいましょう。

📖 p190 **生活でよく使うことば 16 「日本の地図」**



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 地元のおすすめスポットについて話し合ってみる／



他にどんなものがあれば、話題が広がるでしょうか。

例) 旅行のパンフレット／チラシ／

ステップ1

【1】日本の祝祭日や休みの日を確認します。📖 p191 **生活でよく使うことば 17 「祝日」**

【2】お互いに休みの予定を聞きあってみましょう。



休みの予定を聞く場合、いきなり「どこへ行きますか」と質問するのは不自然です。まず「どこか（へ）行きますか」と、出かけるかどうかを確認した上で、次に「どこへ行きますか」という問いかけが続きますが、学習者には、「どこかへ」と「どこへ」の区別が意外にむずかしいようです。

ステップ2

* おすすめスポット1・・・〇〇へ行くなら、どこがおすすめかを聞きます。

【1】休みの日に行ってみたい所を選んでもらいましょう。

【2】【1】で選んだ場所の見どころを紹介します。会話例に沿って質問してもらいましょう。

* おすすめスポット2・・・目的にあったおすすめの場所を聞きます。

【1】「温泉に入りたい」「バーベキューをしたい」など行った先でやりたいことを考えてもらいます。

【2】【1】で出た希望のことができる場所を紹介します。

ステップ3

【1】旅行のためのいろいろな交通手段を確認します。



どんな交通手段がありますか。

例) 飛行機／

【2】交通手段を選ぶのに、運賃、速さ、利便性など、人によって優先順位が違うでしょう。また、その組み合わせで選ぶかもしれません。学習者が交通手段を選ぶ条件を聞いてみましょう。

【3】会話例を見ながら学習者の希望に合った交通機手段を紹介します。



ひとつずつのステップについて確認できたら、ステップ1から3まで通してやり取りしてみるのもいいですね。ただ、そのままでは少し不自然な会話になってしまいます。行きたいところ、おすすめスポット、交通手段という3つのトピックについて話すことを目標に、まとまりのある会話になるように工夫してみましょう。

発展練習として、設定を学習者の出身地にし支援者がアドバイスを求めることもできます。また、ステップ2、3の会話例は、旅行についてだけでなく買い物や外食といった話題でも使うことができます。

▶かつどう2 「旅行の感想を言う」

【ウォーミングアップ】

行ったことがあるところ楽しい思い出など、互いに話してみましょう。



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 『わたしの生活ノート』 p34



他にどんなものがあれば、話題が広がるでしょうか。

例) 旅行先で撮った写真／

《旅行のお土産を渡す》

【1】旅行のお土産について話し合ってみてください。



国や文化によって、お土産を渡すかどうかや、渡す相手、品物について違いがあるでしょう。それを知った上で、日本では、どういう習慣があるかを説明するとイメージしやすいでしょう。

【2】旅行の報告をしながら学習者にお土産を渡します。



必ずしも実物である必要はありません。学習者が何をもらったか理解できるようなイラストや写真があれば、活用しましょう。また、一方的に報告するのではなく、学習者が興味を持って、いろいろな質問がしたくなるように工夫してみましょう。

【3】p155 上の設定を見てください。今度は学習者が旅行に行ったという設定で、会話例に沿って、やり取りしてみましょう。



みなさんは何と言ってお土産を渡すでしょうか。人によっていろいろですから、こう言わなければならないというルールはありません。しかし、「これ、あげます。」と言うのは、どうでしょうか。上からものを言っているように聞こえるかもしれませんね。文法的には正しくても、実際の場面では使うには注意が必要な表現の一つです。



お土産を渡すとき、どう言いますか。いろいろな表現をあげてみましょう。また、それにふさわしい返事を考えましょう。

例)「これ、どうぞ」→「ありがとうございます」

・「お口に合うといいのですが」→

・
・
・

▶ かつどう 3 「インターネットで電車の時刻を調べる」

【ウォーミングアップ】

(1) 日ごろ、パソコンをどのように使っているか、話し合ってみましょう。ケータイやスマホ、タブレットをよく使うという人もいるかもしれません。

メールを送る／インターネットで検索する／音楽を聞く／ドラマや映画を見る／ゲームをする／写真やビデオを編集するなど

(2) 交通経路を自分で調べることができるかどうか、その方法を知っているかどうか聞いてみましょう。

インターネットの経路検索サイトを使う／時刻表で調べる／駅の窓口で聞く／友達に聞くなど



他にどんなウォーミングアップができますか。

例) 学習者のインターネット環境について確認する／

ステップ1

ここでは、インターネットを利用して、交通経路を調べる方法を知ります。まず、検索キーワードを正しく入力できるか確認してください。👉p65～72 『第5課日本語でパソコンに力する』



ここにあげた二つのキーワードは、どちらもローマ字入力を間違えやすいので、注意してください。
「ろせんじょうほう→rose~~nn~~jouhou」 「乗換案内」 「norikae~~ann~~nai」

ステップ2

【1】選んだサイトによって画面表示が異なります。まず、P158 のことば・ひょうげんと、p159 のイラストを利用して、入力の必要な項目を確認しましょう。

【2】入力項目の意味をやさしい日本語で確認してみましょう。

1) ① D ② E+F ③ B ④ A ⑤ E+G ⑥ C

2) ①一番早く着きます ②運賃が一番安いです ③乗換え回数が一番少ないです

ステップ3

条件を設定し、実際に検索してみます。

【1】日付を設定します。学習者の休みの予定や、希望の日程について話し合って決めましょう。

【2】p159 のイラストを見て、A～G のどこに何を入力するか確認します。

【3】実際にインターネットを使って検索してみましょう。



支援者も同様に検索し、メモを見ながら、お互いに情報交換しましょう。どの行き方を選ぶか、その理由もあわせて話し合うといいですね。

p46 で紹介した HyperDia (交通総合 Web ハイパーダイヤ) は、英語と中国語で検索することができます。

▶これだけ 漢字！！

(1) p161 にある枠で囲まれた理解漢字 (例 開館時間／料金) が、実際のパンフレットや案内板のどこに書いてあるか探してみましょう。それを手がかりに、施設の休館日、開館時間、料金の仕組みなどの必要な情報を読み取ります。

(2) ① 開いています。 ② 午後5時半までに入らなければなりません。 ③ $500 \text{ 円} \times 2 = 1000 \text{ 円}$

 地域の便利な施設の利用案内や、近隣の観光地のパンフレットなど準備できるものがありますか。

例) 図書館／



地域の施設へ実際に行ってみて、利用について学習者とともに調べてみるのもいいですね。

+1 !

経路検索のためのサイトはいろいろあります。また、パソコン、スマホ、タブレットなど機器によって、それぞれ使いやすいものが違うかもしれません。

どれが使いやすいか、学習者と情報交換してみましょう。
インターネットの扱いに慣れている学習者なら、支援者が教わることもいろいろありそうです。

第__課

かつどう__

ステップ__

活動	内容	準備する もの 
ウォーミングアップ	何を見ながら、どんなことを話しますか。	
ことば・ひょうげん	地域の生活に合わせて、必要な語彙や表現があれば追加しましょう。	
ステップ		
こんなときどうする？		
これだけ！！漢字		
	教室外につなぐ活動のアイデアを！	